

こんにちは 健保組合です！

航空集配
サービス隊の巻

たくさんさんの想い出をつくった夏もようやく終わり、文学・食欲・運動それに仕事と何かと活動しやすくなる秋の始まりです——という書き出しがふさわしい今日この頃なのですが今年は何かが違いました。

こんなに雨の多かった夏は記憶にありません。「今年の夏は何をしたかな？」と皆さん感じていることでしょうか。また、天災によって被害を被った方々がたくさんいらつしやいました。心からお見舞い申し上げます。

科学が発達して我々の生活環境が改善されてきた反面、その代償として自然環境が見えないところで驚くほど破壊されてきています。この天候不順は自然界からの警鐘なのではないでしょうか。

昭和六十三年に建てられた 立派な社屋

前置きはこのくらいにして、事業

所訪問の第一回目は、私たち事務局の事務所と同じ習志野市に所在する航空集配サービス株式会社にお邪魔することになりました。

九月七日、この日も毎週のように発生し日本列島に大きな爪痕を残していく台風が沖縄近辺に発生したようであるのでその動きを憂慮しながら、目的地に車を走らせました。

今日の目的地は京成実籾駅から車で数分、閑静な住宅街と、工業団地の境にあり、近隣には野球の古豪習志野高校がありました。昭和六十三年に建てられた立派な社屋の前で車を降り、二階の事務室へ向かいました。「こんにちは健保組合です！」とあいさつすると、女性の職員の方が丁寧に社長室へ案内してくださいました。入室すると、堀越社長が執務中でいらつしやったにもかかわらず「ようこそいらつしやいませ！」と私たちを迎えてくださり、名刺の交換をさせて頂きました。しばらく

して、組合の理事でもいらつしやる桐生常務が同席されました。初めに、恒例のとおり事務局から健康保険組合の現況についてご報告し、取材が始まりました。

最初の話題は、特に設定したわけではありませんが、たばこについてでありました。桐生常務は入院がきっかけで禁煙されたそうです。かつてはヘビースモーカーだったそうですが、それをきっぱり絶った精神力には敬服しました。「百害あって一利なし」とわかっていながらも喫煙者には耳の痛い話です。（堀越社長はかなりの愛煙家のようにでした。それも企業経営上のストレスのせいとおっしゃられました……）

社長の経営哲学は 「人間はポジティブでなければ」

話は移行し、経営上の話題になりました。同社は、昭和五十年から第一・三土曜日に早朝会議を開催しているそうです。全国に一〇数店ある支店や営業所から幹部を集め、経営等について意見を交わされているそうです。驚いたことに、開始は朝六時、時には夜一〇時頃にまで及ぶこともあるそうです。こんな社長の情

▼堀越社長(右)と桐生常務



熱はとどまるところを知らず、昭和四十五年にトラック三台から大森で事業を開始し（この時点が設立だそうです）、成田空港の開港に伴って昭和四十九年に現在の習志野に移転されたそうです。開港が遅れたことによって苦難の時期もあったようですが、時代を見極めた設備投資を続けられ、同社を大きく育ててこられました。今も大きなプロジェクトに取り組んでおられるそうです。

堀越社長は「戦死する名将はいない」とおっしゃられ、「結果をよくするのが企業のトップの使命」と続けられました。使命達成のために、さまざまな創意工夫をされてこれ

人材の育成（地獄の研修と呼ばれる習志野から成田まで歩かせるといふ研修も行ったそうです）はもちろん、異業種からのヘッドハンティングもやぶさかではないとのこと。「この厳しい中、不景気を理由に業績不振を正当化してはならない、不景気だからこそシステムの勝負」と力説されました。本題について氏は、「人間はポジティブでなければいけない」と結ばれましたが、同氏の経営哲学は、私たちの健康保険組合運営にも相通するところがあり大変参考になりました。

福利厚生の一環として 五年に一度イベントを開催

最後に企業の福利厚生についてお聞きすると、同社は五年を一区切りとしてイベントを実施されておられ

るそうです。海の家や納涼会等、内容をお聞きするとそのスケールの大ききには驚かされました。また新たな企画を検討されるようですが、社員の方たちはどんなイベントが登場するのか心待ちにしているのではないのでしょうか。

こうして迫力ある堀越社長の話術に引き込まれるように流れた時間にピリオドを打ち、私たちは航空集配サービス株式会社を後にしました。社長には、大きな夢があるそうです。氏のたつての希望で本文への掲載は差し控えますが、いつかきつと実現されることを祈念いたします。取材にご協力頂きありがとうございました。

帰路につくころにも小雨がパラついでいたようですが、皆さん、秋こそは実りあるものにしたいたいですね。